資料２

地域課題解決のための検討

地域課題

つながりがない（周囲とのつながりを持てていない高齢者がいる）

つながりがないと何に困るのか？

①抱える問題がより深刻化してしまう

・体調や認知機能に変化が起こっても、周囲がそれを知ることができず問題が深刻化してしまう。
・誰に相談してよいかわからず、必要なサポートが受けられないまま状況が悪化してしまう。
・孤立死につながる。
・生活が改善できる可能性を失くしてしまう。
・（支援者側）つながりがない家庭の困りごとを見つけにくいため、隠れた問題が大きくなってから表面化する。これにより対応がより困難になる。
・（支援者側）問題が深刻化してからではサービスが介入困難になることがある。

②認知機能や精神機能を含む機能低下が起こりやすい

・孤独感から気持ちが沈みがちになり、意欲低下、うつ状態になることがある。
・他者との交流がないため刺激がなく、生活のハリもなくなる。元気でも他者との交流が少ないと認知症発症のリスクが高まる。

③防犯、防災、緊急時の対応ができない

・話し相手を求め悪質商法や詐欺の被害に遭う。詐欺に遭っても周囲に気付かれない。
・災害時どうしたらいいかわからない。
・体調の急変や転倒などの際に対応遅れが生じる。
・家族が無ければ対処の遅れは命に関わる。
・（支援者側）災害時に助けられない。

④家庭内の問題が見つかりづらい

・周囲の見守りがないと家庭内の問題が見つかりにくい。
・介護疲れが解決されず、虐待が発生する恐れがある。
・（支援者側）家庭の実態がつかめないため、キーパーソンが特定できず、支援の方向性に困る。生活実態も把握しにくい。

⑤情報不足になる

・情報を得ることができない。
・相談する相手がいない、わからない。
・（支援者側）情報が入らない。

解決案	左記に必要な支援
個人でできること	
・挨拶の相手を作る	・井戸端会議ができる環境を作る
・近所の人と話し、顔の見える関係を作る	・子ども世代と交流できる場を作る
・生きがいを作る ・趣味を通じたつながりを作る	・老人福祉センターや、住民運営のつどいの場の利用につながるような取組み（リーフレットやチラシを作る）
・サービスを利用する （サービスを利用することで問題に気づいてくれる人を作る　例）配食、新聞購読、見守りシステム）	・お試し利用ができるようにする
・近所の変化に気づく	・若い世代も含め、近所に目を向けるように啓発する ・近所の変化に気づいたときの相談先（包括支援センター等）を明確化する
地域、事業所の取り組みでできること	
・無理なく続けられるつながりを地域で作る	・回覧板を通じたつながり作り ・つながられる場所に無理なく通い続けられるよう“足”を確保する ・地域や事業所が担い手になり、負担を軽減するような支援をする（地域では、役員などの役割が負担になり、続けられないケースがある）
・既存の仕組みを利用したつながりを強化する	・既存の介護保険サービス、障害福祉サービス、市の事業など必要なサービスを使うよう啓発する
・防災を通じたつながりを作る	・地域の小さい単位で防災訓練を行って近所同士の状況やお互いにどんな動きが取れるのかを把握する
・地域の見守りや巡回活動	・様々な団体等と連携して地域の見守りを行なう新しい仕組みを作る
・相談先をわかりやすくする ・相談できる場所を作る	・生活の中で目にしやすい場所に情報を掲示する

・つながりの場を増やす	・つながりの場を担っていただける人材の確保と育成を行う
※公的サービス化、制度化の検討が必要なこと ・地域を見守る新たな体制を作る	・見守り電話など新たな体制を検討する